

# 日本遺産 初の認定

## 「琵琶湖とその水辺景観」と

## 朽木小川の「思子淵神社」と

### 日本遺産

皆さんは、「日本遺産 (Japan Heritage)」をご存じでしょうか。

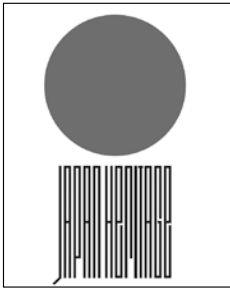
これは、地域に点在する有形・無形の文化財や伝承などの歴史的な特色を題材にしたストーリーを「日本遺産」として国が認定する名称とそのロゴマークです。「日本版の世界遺産」として認定をすることで観光客誘致や地域活性化を図ることが目的で、今年新たに創設された制度です。

初の認定には、全国から18件のストーリーが選ばれ、その中の一つとして滋賀県の琵琶湖の水と人々が織りなす文化を集めた「琵琶湖とその水辺景観」が、今年4月に認定されました。このテーマを構成する文化財として、延暦寺、日吉大社をはじめとする社寺、沖島

### 思子淵神社

そのシコブチ神を祀る社は、安曇川水系を中心に15か所存在しています。このうち、朽木小川所在の「思子淵神社」は、ひとつの建物中に本殿、蔵王権現社、熊野社の3社が納められ、このうちのひとつ蔵王権現社は残された板札の年号から、応安4年(1371年)に建築されたことが分かります。他の2社も建築様式等から同年代のものと考えられ、14世紀後半(室町時代前期)の社殿を3棟一体に良好に残す極めて貴重な建造物であるといえます。加えて、安曇川を中心に独自の発展を遂げた「シコブチ信仰」の形態を知り得る重要な社であることから、今年5月に国の重要文化財になることが決まりました。

伊吹山などの自然景観や五箇荘や醒井宿の建造物群、そして、ふなずしに代表される食文化やエリ、ヤナなどの伝統漁法があげられています。高島市からは「近江の厳島」と称される白鬚神社や、水との生活が調和した景観(海津・西浜・知内の水辺景観、針江・霜降の水辺景観、大溝の水辺景観)のほか、安曇川流域の筏乗りを魔物から守る「シコブチ信仰」が入るなど、水との関わりがアピールされています。



日本遺産 (Japan Heritage) のロゴマーク

これから2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでに100件程が日本遺産に認定される予定です。日本遺産認定をきっかけに、地域の「宝」に光があたり、思子淵神社のように地域で大切に守り継がれてきた歴史遺産が、ひ

とつでも多く未来に継承されることが望まれます。

文化財課 ☎(32) 4467



【写真】 思子淵神社 3棟  
蔵王権現社(左奥)、本殿(中央)、熊野社(右手前)

### 編集感

最近、「仕込み女子」が増えているらしい。発酵食品を手作りする女性のことを言うようで、「育てる食」が女性の心をとらえていると新聞にはあった。「発酵のまち」を称する本市にとっては大変興味深い。まずは試しにと、私も、「仕込み女子」ならぬ「仕込みおじさん」に扮して、ぬか漬けに挑戦することとした。お世話が大変だが、その成長が気になって仕方がない。まさにペットか、子どもかという感覚に近い。どんな風味に成長していくのか。毎日、容器を覗き込むことが日課となった。「育てる食」を育ててきた高島市。みんなの手で可能性を育てていきたい。(Y)

広報たかしま

平成27年

7

月号

No.186

発行 高島市

編集 政策部秘書広報課

0740(25) 8000(代)  
http://www.city.takashima.lg.jp  
t:info@city.takashima.lg.jp

